

# 日新 動労千葉

80.4.17  
NO. 405

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八(動力車会館)  
鉄電二三五八九(公衆電話22)七二〇七

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉碎！

# 公労委「調停不能」 80春闘の再構築をかちとれ！



4.15 決戦スト突入 前夜総決起集会  
(於・津田沼電車区構内)

まじこもスト前夜竹竿石三百名のヘル部隊でスト破壊津田沼支部襲撃を行った本部反動暴力集団を粉碎して、動労千葉は決戦ストにたった。

## 政府の不当介入抗議・京成闘争

## 4.15 動労千葉24日減産 闘争の貫徹へ。支援

「本部」革マル暴力集団の二百のヘルメット部隊によるスト破壊策動を断固粉碎した動労千葉は、四月十六日零時より、千葉・鹿島両拠点を先頭に十二時から津田沼、蘇我、鹿島地区において整然とストライキに突入した。交運、公労協の闘いを背景に進められた公労委における調停作業は政府の不当な抑圧に屈服した公益・使用者側の対応により、労働者側委員が労働大臣に辞表を提出するという春闘の歴史上かつてない調停不能という異例の事態に立ち至ったのである。動労千葉は再度の賃金闘争を力強く構築してゆくことを期して、さらには、政府の不当な圧力をもってする賃金抑圧に抗議し、資本の民鉄協脱退をもってする攻撃と敢然と闘い抜いている京成労組の仲間への支援・連帯をかけて、四月十七日始業(発)時、二十四時の全組合員による減産闘争(乗務員ⅡA行動、地上勤ⅡB行動)を闘い抜くことを決定した。ストなし春闘策動をうち破った動労千葉の10・22、11・1ストをはじめとする七九秋年闘争から引き続き闘いの自信と確信に踏まえ八〇春闘を闘い抜いてゆこう。

### 「おんぶにダッコ」Ⅱ「本部」スト破り集団の「ストライキ」

動労千葉の堂々たる闘いの展開の前に、「本部」反動暴力集団の「津田沼拠点」ストはみじめでコッナイものであった。自らの職場で闘うことを放棄し、マイクロバスに竹竿を積んで津田沼支部へ押しかけた二百名のヘルメット部隊は、動労千葉のストを暴力的に破壊しようとする策動が粉碎されるや当局に泣きつき、「スト対象乗務員」が当局の白腕章に守られ、「おんぶにダッコ」の送り迎えをされながら「スト」に参加するという醜態を当局との密着ぶりを津田沼の動労千葉や国労組合員の前にさらけ出したのである。闘争時に当局の白腕章に送り迎えされるのは「

スト破り」の共通の姿である。マル生時の裏切者や鉄労の姿と「本部」革マル反動分子の姿とどこが違うのか。

動労千葉の全ての組合員はこのスト破り集団の姿の中に「あつてはならない労働者」の典型を見ているのだ。

### さらに確信に燃えた闘いを！

新生佐倉支部からは六十余名の組合員が津田沼支部の総決起集会へ結集し、自らの職場へ籠城して断固として闘い抜いた。各支部から学園から闘う意気に燃えた組合員が続々と津田沼支部へ結集した。動労千葉の全組合員は闘い抜いた確信に燃えている。この確信をさらに打ち固め、八〇春闘の再構築へ向けて闘い抜こう。

### 公労委の経過

四月十五日、公労委は関東地調委からの上移にもとづき総会を開き、動労千葉の賃金闘争に関する調停委員会(金子調停委員長、佐藤労働側委員、石井使用者側委員)十六日早朝、私鉄が妥結した後をこの発足と事情聴取を行うことを決

定、十四時十五分から第一回事情聴取が行われた。公労委は十七時三十分から各組と同一職種である国鉄の賃金を同一水準にすることを拒否し続けたために難航し、最終的に労働者側委員は労働大臣に辞表を提出し、春闘の歴史上かつてない調停不能という事態に立ち至った。(四月十六日十七時現在)

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！